

活學

(「活學を講ず」より引用)

国士舘大学 楓教育会だより 第7号

— 令和時代における「楓教育会」の使命 — 令和3年 6月19日(土)
発行

コロナ禍の悪条件の中で「教師になる準備」と「考える力」を！

国士舘大学楓教育会 会長 田代和正

新型コロナウイルス感染症が中国・武漢市で確認されてから1年を経過しました。その流行拡大は収まる気配を見せません。昨年の春先にささやかれた「夏になれば終息するのでは」との期待も虚しく、なお猛威を振り回しています。2021年4月25日、東京都と一部の道府県では3回目の緊急事態宣言が発令され、さらに6月20日まで延長を余儀なくされました。国士舘大学の皆さんが目指している教師となるためには、コロナ禍の悪条件の中で教師になる準備をしなければなりません。しかしながら、終息しないコロナ禍により学校現場では今年度も教育実習の受け入れが難しい状態です。教員採用の条件は実習を行うことが原則ですが、「真にやむを得ない場合」に限り、実習なしでも教員免許の取得を認めています。文部科学省は昨年8月、大学の座学の授業で代替できる特例措置を設けましたが、新規採用でクラス担任を受けもつことも多く、現場経験がないまま教職に就くことに不安を抱く方が多くいます。

さて、最近、特に若者について危惧していることがあります。その中でも「考える力」が希薄になっているのを感じます。「覚える力」は抜群ですが、疑問や好奇心がなく「考える力」が希薄になっています。しかも、我が国の将来を支えるべき最高学府に学ぶ学生に、その力が極端に落ちていると言われていることが大変気掛かりです。「考える力」が希薄ということは、同時に「生きる力」が希薄であるということの意味しています。

20世紀を代表する科学者のアルバート・アインシュタインは、「わたしには、特殊な才能はありません。ただ、発狂的な好奇心があるだけです」とメッセージを示しています。彼の業績は説明するまでもなく非常に大きなものがありました。特に、「特殊相対性理論」が有名です。アインシュタインの偉大さは、決して物理学の世界だけではなく、私達の身近な生活を豊かにする技術として広く応用されているところにもうかがい知ることができます。例えば、カーナビで使われているGPSの精度の向上は、相対性理論によって飛躍的な進歩を遂げることになりました。この革命的な理論を残したアインシュタインは、前述の彼の青葉のように「自分に特別な才能があるのではなく、物事をしっかり凝視し、そこから生まれてくる素朴な疑問を誠実に受けとめ、その疑問を解くために寝食を忘れてしまうほどの好奇心をもって、その好奇心に忠実に生きてただけだ」と言い切っています。

このアインシュタインの言葉には、私達が生きていく上での大きなヒントが隠されています。既成の常識を覆す、あるいは絶体絶命とも思える厳しい状況を突破するためには、物事をしっかりと見極める「凝視力」そしてその凝視によって見出そうとする新たな真理へのチャレンジを支える「疑問力」さらに、その新たな真理の発見に全身全霊をかけて取り組もうとする「発憤力」この3つの力を結集した力をもつということではないかと思えます。

最後になりますが、国士舘大学で学んだ「誠意」「勤労」「見識」「気魄」の涵養と教育理念を兼ね備え、これからの資質を磨き、「考える力」を身に付け教職に生かしてほしいと思います。教職を目指す国士舘大学出身の皆さんに多くの方々が期待をしております。是非、教員採用試験にむけて最善を尽くしてほしいと思います。

楓教育会だより「活學」第7号発行に寄せて

—吉田松陰から学ぶ、教育の要諦とは—

学長 佐藤 圭一

令和への改元の年に発刊された“楓教育会だより「活學」”は、3年目にして第7号を迎えております。教育の現場で長年に亘って培われたご経験豊かな楓教育会の先生方による優れたご指導の下で「教職の国士館大学」の伝統が継承されておりますことを誇りに思い、日々のご尽力に衷心より御礼申し上げます。

さて、ご存知のように「活學」とは、大正6（1917）年に国士館の創立目的を広く宣した『趣意書』にある「…膝を交えて親しく活学を講ずる教育道場を開設せんと欲する…」に初出するものです。それは創立者である柴田徳次郎館長が敬愛して已まなかった吉田松陰が叔父から後継した松下村塾で織りなされた師弟関係や教えを範として「…（国士館教育の理念は）心の学であり、活きた学であり、信念の交感である」（同趣意書）としたのです。松陰は弟子達に説きます。「学問とは、人間がいかにあるべきか、いかに生きるべきかを学ぶことである」、更に「勉強だけはいけない。実行こそが大切だ」、そして、教育とは「愛（お）しむこと。つまり「愛することが人を育てること」だとするのです。その教えは、かつて柴田徳次郎館長が国士館教育の真髄として語った「教師が知を愛情で溶かして飲ませるものであるべきだ」に通底するものです。

加えて、吉田松陰は人に悟りを与えることを「人を點醒(てんせい)す」とも述べています。生徒達に「生きることの意味、勉強することの意義と目的」＝“自覚しての自主的行動”を促す點醒とは、時を超えて教育者に求められる要諦であると思われるのです。そして、私たちは、国士館館歌「松陰の祠に節を磨し」（＝松陰の志を偲び、国士館生は常に礼節を磨くことに努めよ）に込められた意味を、折々に復唱・確認してみることが肝要です。教員に課せられた崇高な使命を果たすために、そして国士館生であることの誇りとして！

.....

あ い さ つ

国士館大学同窓会

会長 坂本 勝矢

楓教育会会長はじめ、皆様におかれましてはますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会活動に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスについて、国内では昨年に続き感染が拡大しておりますが、2月より待望のワクチンの接種が医療従事者から開始されております。しかし、変異ウイルスの発生による感染の拡大傾向で、政府は3回目の「緊急事態宣言」の延長並びに追加の発出が6月20日まで出され、なかなか収束が見えにくい状況となっております。

このように新型コロナウイルスの感染防止対策が求められる状況において、国士館大学楓教育会教職支援室（以下、「教職支援室」という。）は、ホームページの開設とともに、メールによる論文添削、そしてZ o o mを使用したW e bによる個別面談、さらに面接練

習など、オンラインを積極的に活用した感染防止対策を講じる取り組みには心より感謝申し上げる次第であります。

また、「国土館大学楓教育会だより第6号（令和3年3月25日発行）」に掲載された「学校訪問シリーズ」及び「後輩への激励の言葉シリーズ」では、学生の声として、①オンラインを通して心に寄り添ったご指導いただいたこと、②面接シートの添削で非常に練習になったこと、③コロナ禍での孤独、不安、に耳を傾けていただいたこと等、各先生方の的確な助言等により「自信がついた。」「大学の講義で学べないものを得た。」との貴重なメッセージには驚きとともに、教職支援室の成果は大きくますます期待するところであります。

今年度も教職支援室の取り組みに対しては、教職を目指す学生が一人でも多く教職採用試験に合格できるようよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今年度は東京五輪・パラリンピックが開催されます。これからも全国同窓会が全面的に協力いたしますので、今後の教職支援室の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

.....

第19回楓教育会総会を開催しました（報告）

令和3年6月12日（土）15：30より、LINE ミーティングにより、開催されました。最初に、田代和正会長に挨拶を頂き議事進行をお願いしました。①令和2年度事業報告、②会計報告・監査報告、③令和3年度役員（案）、④令和3年度事業計画（案）、⑤令和3年度予算（案）について、承認されましたので報告します。なお、総会終了後、オンラインによる親睦会を行いました。議事録は、楓教育会ホームページを参照してください。

.....

「国土館大学楓教育会ホームページ」を改訂中です。お楽しみに！

「国土館大学楓教育会」では、ホームページを開設し、教員採用選考試験対策や管理職選考試験対策コーナーを設け、楓教育会だよりを掲載しています。特に、一般教養・教職教養・論作文などの資料を提供し全国の教員採用に関する情報を集約できるよう整備を進めています。リンク先は、<http://kokushikan-kaedekyoikukai.com/> です。

.....

顧問の先生方より

顧問の田邊修先生のお手紙に「江戸川区の小中学校に国土館の教員志望の学生、30数名を学校補助教員として、手伝いをしていただき大変助かりました。おかげでそのまま、正規の教員として、大勢残り、活躍しています。希望の学生がいたら、紹介して欲しい」とありました。そのためには、学校ボランティア体験やインターンシップを希望する学生を受け入れていただく仕組みを整えなければならないと提案を頂きました。

1次・2次教員採用選考試験対策（総仕上げ期）に向けて

教育実習で学ばれたことを糧に、次は第1次教員採用選考試験を突破するぞと決意を新たにする時期です。教職教養のみ出題という自治体や自治体特有の時事問題を出題する自治体、論作文を一次に行う自治体などそれぞれの傾向と対策が求められています。これまで「基礎力養成期」・「実力アップ期」を経て「総仕上げ期」と積み上げてきた成果を踏まえて、教職教養・一般教養・専門教科などの筆記試験に全力投球をしましょう。



	基礎力養成期	実力アップ期	総仕上げ期
教職教養 一般教養 専門教養 (1次試験筆記問題重視)	広く深く参考書・過去問などを熟読し苦手を明らかにし基礎力を高めよう。自治体の1次・2次の出題傾向を分析しよう。12月までは、一般・教職・専門を重視しよう。	過去問や模擬試験を活用し、自己分析を行いノートに整理しよう。これまでの成果を模擬試験で実力を試そう。答申・報告や学習指導要領解説 総則編とのつながりを把握し、不得意分野を克服しよう。	直前期は、これまでのノートづくりや模擬試験の結果を生かした総復習を行い全体のつながりを理解し実力アップを図ろう。受験自治体の問題数と時間配分など問題を解く練習をしよう。
個人面接 集団面接 集団討論 模擬授業 場面指導	面接は「人物重視・即戦力」を見極める場です。「引出し」づくりと捉え教師像・生徒像を骨太に仕上げましょう。	学習指導案づくりは実力アップのコツです。面接ではボランティア体験での学びが有効です。教材研究『解説編』や『生徒指導提要』を見直そう。	筆記問題の知識を面接や論作文に生かす総合力を育むもう。時事問題や受験自治体に関する問題に積極的に取り組もう。
論作文 1000字 800字 400字	学校ボランティア体験などに積極的に取り組み、授業像・学級像・チーム学校像を育み、自己の教師像を具体的に創ろう。	課題に対し「正対」しその背景となる「キーワード」を解決するために「三つの柱立て」それぞれに「論例策」を具体的に論述できる力を育もう。	教職・専門教養の学びを「引出し」づくりと捉えて、面接や討論に強い実践的指導力（即戦力）を育むとともに論理的思考力を育もう。

(令和元年度東京アカデミー資料 一部引用)

編集後記

—主な楓教育会活動計画—

- ①会計監査 令和3年 4月17日(土) 14時～
- ②第1回役員会 令和3年 5月14日(金) 17時～ (オンライン役員会)
- ③令和3年度第18回楓教育会総会 令和3年 6月12日(土)
15時30分～ オンライン総会 16時30分～ オンライン研修交流会
- ④第2回役員会 令和3年11月26日(金) 13時～ 検討中
- ⑤第3回役員会 令和4年 2月26日(土) 15時～ 検討中